

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3470206156		
法人名	有限会社 谷 浦 産 業		
事業所名	グループホーム くつろぎ		
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区利松一丁目26-13 (電 話) 082-927-5557		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成 21年 2月 5日	評価確定日	平成 21年 2月16日

【情報提供票より】(21年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.9

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 ~ 53,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	(有) (150,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.4 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生協さえき病院・さくらい歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広島市郊外の静かな環境の中に立地している当ホームは「笑顔」「真心」「気配り・目配り」の運営理念のもと、管理者を中心に全職員が目標を掲げて利用者がゆったりとそれぞれのペースで安心して暮せるようにしている。居間では利用者の歌声や笑い声がよく聞こえてきて明るい雰囲気を作られている。管理者は職員共々地域密着型のホームとなる様に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価後に管理者・職員共に入れ替りがあり、改善点の引継ぎも充分行われていない。 要改善点・特記事項をよく確認され早急かつ前向きな取り組みを希望する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 評価の意義はよく理解されており、自己評価は職員の意見を管理者が中心になってまとめ、ホームの質の向上につながる取り組みが始められている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は管理者・職員の退職などで途絶えがちであったが、新管理者のもと20年12月10日に入居者及び家族代表、民生委員、地域包括支援センター、ホームの職員で開催された。今後は2ヶ月毎に開催される予定になっている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に利用者の状況を説明すると共に意見要望を聞くようにしている。ご意見箱も設置されている。 毎月の請求書発行時に各人の近況のコメントを同封したり、家族会の設置、ホーム便りの発行をされることを希望する。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には積極的に参加するように心がけているが、町内会・自治会への加入はされていない。運営推進会議や町内会への参加などを通して地域や地元の方々との交流や連携を深めることを希望する。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームのスローガン「あいさつ・笑顔・真心・気配り、目配り」の基に、地域で利用者が家庭的な雰囲気の中、安心して暮せるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの見えやすい場所に理念を掲示するなど、職員の理念の共有化と具体的なケアの実現に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきサロン主催の忘年会に参加したりして、地区の行事に積極的に参加するように心がけているが、町内会・自治会等の加入はしていない。		町内会等に参加して地域との交流を深めるように活動されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をよく理解しており、自己評価は職員の意見を取り上げ管理者が中心になってまとめている。外部評価についても質の向上につながるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表・利用者家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員の構成で、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催する予定である。	○	管理者を含めて職員の交替が多く、会議の開催が予定通り行われていない。会議のメンバーも地域の方々の協力を得て、実のある会議とされることを希望する。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口で電話や直接訪ねるなどして関係を深めて、適正に運営が出来るよう前向きに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日頃の状況を知らせるようにしている。又利用者の容態変化や職員の異動等については電話報告をしている。ホーム便りも発行されている。		毎月の請求書発送時に利用者の実状や写真等を同封するなど定期的な情報提供が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置すると共に、家族の訪問時や運営推進会議に於ても家族や利用者にも出席して自由に意見を述べてもらい、ホームの運営やサービスの向上に役立っている。		さらに家族の意見や要望を出してもらえよう「家族会」の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に於て離職者が多く利用者との馴染みが保ちにくいのが現状である。	○	離職の原因等究明してその対策を図り、職員の定着率を上げることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在の所、職員の外部研修受講は行われていない。ホーム内での働きながらのトレーニングが中心となっている。	○	管理者及び職員育成のため段階に応じた教育計画を建て、更なる質の向上に努めていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会に参加して、ネットワークを作り積極的に情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される時本人家族との面談で意見・要望をよく聞き又体験入居を受け入れたり、職員との信頼関係を作り、早く安定した生活が送れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族より生活歴を聞き、一方的に支援する側に立つのではなく、明るい雰囲気作りに努め、その人の能力に応じた事、料理の手伝いなどを一緒に行なうことで、互いの信頼関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で利用者の希望や意向を把握すると共に、家族の方からも、その方の生活歴や情報を得るようにして、その人らしい、ゆったりとした生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向・家族の意見・職員の情報を基によく話し合い、その思いを参考にして、その人らしく生活出来るような介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っているが、状態の変化や家族の要望があればその都度介護計画の見直しを行うようにしている。	○	定期的な介護計画の見直しの期間を明示される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な買物や散歩の他に、利用者・家族の要望に対しては、可能な限り柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、かかりつけ医院への受診を支援している。日常的には家族利用者の同意の上、提携医の往診を受けて健康管理を行なうと共に、体調の変化等の把握をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所内で終末期に対する方針を作成している段階であり、具体的な方針の共有についてはなされていない。		至急、家族の方・主治医・事業所等関係者で方針をまとめ、ホームとして方針の共有化を図られたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者に対して慣れてぞんざいにならないように努め、利用者の誇りを傷つけないように言葉かけなどに注意をしている。個人情報は詰所に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務パターンに沿った支援となっていて、家族や利用者の思いが反映されているとは言えない。	○	家族や利用者の思い意向にそって、一人一人の生活の流れがゆったりと過せるよう、職員全体で相談しながら取り組んで行く事が望まれる。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る人には職員と一緒に食事の準備や片付けを楽しみながらしてもらい、楽しい食事となるよう雰囲気作りが行われている。食事時のサポートもさりげなく行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する時間帯は決められているが、利用者の状況や希望があればそれに対応して支援するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各人出来る事・得意な事を把握し、日々の生活でその力を楽しみながら行なえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が閉籠らないように出来るだけ散歩や買物など各人の気持ちを大切にしながら外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠する事の弊害をよく理解しており、夜間以外は施錠する事なく見守りを重視した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所がマンションの一部であり他の住民と共同防火管理協議会を作り、施設内に緩降機を設置し、避難援助が出来るようにしている。 避難訓練も年2回行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各人の状態を把握して食事がかたよらないよう留意している。 水分補給についても頻繁にティータイムを設けるなどして気を配っている。	○	各利用者の日々の食事量・水分量がわかるように記録される事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い食堂兼居間は利用者の工作した作品などが飾られており、明るさ・音・換気なども適度である。利用者が安心してくつろいで過せるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが家具や馴染みの物を自由に持込み飾り付をして、その人らしく、ゆったりと、くつろいで過せるようになっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所において独自の理念を定め、施設入口掲示コーナーに掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員が理念を共有し、サービスを提供する上での前提項目として日々の業務にあたっている。		。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域全体の行事には積極的に参加し、交流を深めることで、家族や地域から一層深い理解が得られるよう取り組んでいる。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域住民や同建物の住人と会えば、あいさつを交わす程度で、気軽に立ち寄ってもらうような程の交流には至っていない。	○	今後も施設側から積極的に声掛けを行うようにし、日常的な交流を深めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地区の行事には積極的に参加するよう心がけている。直近では、12月に行われた地域のいきいきサロン主催の忘年会に参加した。	○	地域行事への参加の他、運営推進会議など、施設側からできるアプローチも積極的に行い、
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域との交流は受動的であり、地域高齢者等の暮らしに役立つことへの積極的な取り組みは行われていない。	○	運営推進会議などの機会を利用し、施設での理念や活動を発信し、積極的に地域と関わることができる方法を模索していきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的な自己評価および外部評価を参考に、業務改善の優先順位決定に活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	平成20年4月から平成20年12月まで開催されていない。直近の開催は平成20年12月10日であった。	○	運営推進会議は、地域や家族からの意見を聞ける重要な機会と位置づけサービス向上に活かすべく今後は定期的開催を徹底していく。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実地指導などの他に、電話や窓口を直接訪ねるなどして不明な点を解消し、より適正に運営できるよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業所内研修として、地域権利擁護事業・成年後見制度を取り扱った事例は無い。対象となる可能性のある入居者について、区の窓口で相談をしたことはあるが、結果見送り。実際の利用に至る援助は行われていない。	○	今後も、話し合いの場などを通じて権利擁護に関する制度の利用が適当と思われる利用者については、個別の対応をもって具体的な支援の方法を検討していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	行政から配布される資料を通じて、高齢者虐待についての理解を深め、事業所内で虐待が行われることの無いよう防止に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書原本をもって説明し、十分な説明・同意を得たうえで締結を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	施設内に苦情箱を設置し、また、運営推進会議において も施設側の報告のみに留まることの無いよう、利用者や 家族が自由に意見を述べる事が出来るよう図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる。	利用料の請求・領収書に、金銭出納帳とその根拠となる 領収書の複写を添付のうえ発送している。また、入居者 の容態変化や物品購入の伺い、職員の異動についても電 話等で個別に報告行い、その経過を記録している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に苦情箱を設置し、また、運営推進会議において も施設側の報告のみに留まることの無いよう、利用者や 家族が自由に意見を述べる事が出来るよう図っている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を 設け、反映させている。	随時の意見・提案の聴取は行っているが、今まで定期の ミーティング等による機会は作られていない。	○	今年度中に職員ミーティングの開催を行い、定期化 を図ることで職員から意見が聞ける機会を作って いく。随時の聴取は今後も継続して行う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている。	現状では、既定のシフトで対応できているが、例えば勤 務者数が少ない夜間帯の徘徊や緊急時対応などにおいて も柔軟な対応が図れるよう、緊急連絡網を利用した連絡 体制を整備し、有事にはより多くの助力が得られるよう 努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けら れるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わ る場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動率は低いものの離職率は高く、利用者にとって馴染 みと呼べる職員は少ない。	○	離職の原因は様々であるが、体制の変更により改善 可能と思われるものについては法人代表との協議 を行い、職員の定着率上昇を図っている。
5 人材の育成と支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時届く研修案内等の事業所内回覧を積極的に行い、シフトにおいても便宜を図る体制を整えてはいるが実際の受講には至っておらず、事業所内で働きながらトレーニングしていくことが中心となっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者とのネットワーク作りは積極的に行うようにしており、サービスの質を向上すべく随時の情報交換を通じて交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特にストレス軽減を図るための取組みは行われていないが、極力残業の無いよう、お互いが協力し合っている。	○	時期に合わせた親睦会などを通じ、ストレス軽減のための工夫を図る。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	各職員の勤務状況を把握のうえ、意見聴取や提案を極力取り入れ、向上心を持って業務にあたることができるよう努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前の事前相談などを利用し、本人の思いを傾聴し、具現化するよう心がけている。		
----	--	---	--	--

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の事前相談などを利用し、家族等の思いの聞き取りを行うよう心がけている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自社事業だけのサービスにとらわれず、必要に応じて他サービスの利用を含めた、広い対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の際は、まず雰囲気に馴染んでいただけるよう、他入居者や職員との会話を工夫したり、自分の時間を持つていただけるような援助を心がけている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に生活歴などを参考に、本人から学んだり、生活の中で手をお借りするなどして、共に過ごすことができるよう心がけている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	個別の状況報告などを利用し、思いの共有を図り、時には支援の依頼をするなどし、一緒に本人を支えていくことができるよう努めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	事前訪問や適宜の聞き取りにより、本人と家族との関係把握に努め、場合によっては関係の改善が図れるよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れることの無いよう、面会簿を利用して面会者と本人との関係を把握し、関係継続への支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係については、職員同士が理解し、その情報の共有に努め、一人ひとりが孤立することの無いよう、支え合いに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した入居者やその家族についても、会えば挨拶を交わすといった、通常の間わりは続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が過ごしたいように過ごせるよう、生活空間を共有スペース中心に限ることの無いよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接を中心に、本人の生活歴の把握に努めている。必要に応じ、サービス利用中でも本人や家族に対して生活歴等の問い合わせを行い、本人についてより深い把握が出来るよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	諸記録を通して、職員間での情報共有を適宜行い、利用者の現状について総合的に判断・把握するように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	作成された介護計画には、本人・家族の希望の記載はあるも、関係者と話し合った記録は殆ど残されていない。	○	作成担当者変更のうえ、介護計画作成の際には、本人・事業者・家族からそれぞれ意見を集めている。また、その記録を保管し、計画作成に至った経緯の把握に努めている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に応じた見直しは出来ていない。	○	市により行われた実地指導においても指摘を受け、全入居者の現状に即した計画作りを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子については事業者作成の様式に記録を行い、職員間の情報共有に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の要望については、可能な限り柔軟に対応できるように、要望の都度検討・対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域での行事参加、徘徊時の警察との連携など、本人の意向や必要性に応じた協力のもと、支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービス利用についての希望は現時点では確認されていない。	○	今後、入居者の意向や必要性が確認できれば、事業所や地域の枠にとらわれず、利用へ向けた適切な支援を行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて定期的な報告を行っており、報告だけに留まらず、積極的に意見や方策を求めていくよう心がけている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に、提携医療機関の役割について説明。同意を得たうえで内科的管理は往診を主に行っている。他科受診については必要性や利用者・家族の意向を踏まえ、事業者・利用者双方で調整しながら対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居時に認知症の診断を行った医師とは、入居後も連携を図っており、必要に応じて事業所からの情報提供を行い、診断・治療の可否や意見を伺っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診時を中心に、看護師への気軽な相談が行われている。また、提携医療機関の外来においても、事業所の認知はされており、往診に限らず相談しやすい環境にある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中であっても病院任せにせず、数日おきに入院先を訪ね、本人との面会や医師・看護師との情報交換に努め、その結果を職員に申し送るなどして連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	事業所内で終末期介護の方針を作成している段階であり、具体的な方針の共有についてはなされていない。	○	至急事業所の方針を完成させ、本人・家族・主治医といった関係者とも、順次の話し合いで、方針の共有を図っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	法令基準や施設のハード面などの根拠をもとに、個々の事例について見極めを行うように努めているが、医師等を交えたチームとしての見極めには至っておらず、今後の検討課題となっている。	○	チームとしての支援を行うための具体的な役割分担を、終末期の方針共有の場を利用して図ってきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	特に他事業所に移られる場合には、事前の情報提供は積極的に行い、本人のダメージが最小限になるよう努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけについては、職員互いが注意し合えるように努めている。また、個人情報の取り扱いについては、職員に対して文書により説明を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	声かけの際には、介護者の思いが優先されることの無いよう、本人の意思を確認しながら行っている。納得されない場合でも、時間や対応者を変えてみるといった対応を行い、納得していただけるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活パターンは、職員の勤務シフトに沿ったものになっており、入居者側の希望が反映されにくいものとなっている。要改善事項である。	○	劇的な変化は困難であるが、人員や設備、職員の意識改革を図り、入居者が本来の自分の時間として生活できるよう取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容関係は、出張サービスによる施設内対応により、個別の美容院対応等はされていないが、一方で利用者側からの店舗指定等の希望も得られていない。	○	本人の望む店をないがしろにするのではなく、希望があった場合は調整し、対応可能な体制は出来ている。今後もこの体制を維持し、希望には柔軟に対応できるよう努めていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備の際は、好みの献立を聞いてみたり、自発的にテーブルを拭いてくださる姿が見られる。片づけの際も食器やテーブルを拭いてくださっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居時に飲酒・喫煙の習慣を持っておられた方も、徐々に習慣が薄れており、日常的な飲酒や喫煙は行われていない。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄状況にあったオムツ類の使用を心がけており、シフトに準じた定時の排泄介助ではなく、本人の生活パターンに合わせた排泄支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望があれば随時対応できるよう心がけている。現状において、曜日や時間帯についての変更希望等は、利用者およびその家族からもいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息や睡眠については、基本的に本人のサイクルに合わせているが、顕著な昼夜逆転などについては是正できるよう働きかけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の希望に合わせた余暇活動が出来るように支援をおこなっている。当施設では手芸系統の希望・支援が多い。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの方について、金銭は預かり管理となっているが、受診費の支払いなど場面によっては、本人が財布を所持して支払いを行えるよう援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時期的な問題があり、現在は戸外に出る頻度は少ない。気候が穏やかになるのを待ち、近隣その他への外出支援を行なう。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行われていない。	○	本人・家族の希望や意向の収集に努め、普段いけないところでも気軽に行けるよう、支援をしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやりとりは原則自由となっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則、身体拘束は禁止しており、それに基づいたケアを提供している。やむを得ず拘束に至った場合でも、家族に対して事前に内容の説明を行い、同意を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	明らかに見守りが不足する場合を除き、日中の施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室内で自分の時間を楽しんでおられる方を除いて、利用者の傍には必ず見守り対応の職員がついている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	不穏などの際に、自傷や他害のおそれが確認された場合を除き、一律に危険物としてとらえることはせず、状態に応じた危険防止策を取れるように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態に応じて留意すべき点などを共有し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的な訓練は行われていない。	○	開催予定のミーティング等の場を利用して、定期的に訓練を行えるよう図っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	事業所はマンションに所在しており、住人と共同防火管理協議会を設置している。また、施設内にも緩降機を設置しており、地域の協力だけでなく施設単独でも避難援助ができるように考慮されている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居したことで抑圧感を感じる事の無いよう、都度家族や本人の意見を聞けるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインや本人の様子をもとに、異常の早期発見に努めている。必要に応じ、提携医療機関へ指示を仰ぐといった対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容についての情報は事務所に設置。職員がいつでも確認できるようにされており、内容や副作用、症状の変化に気を配ることができるようになっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動と、下剤による排便コントロールを行っている。対応については、提携医療機関の医師と随時の報告・相談のうえ行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは毎食後実施されている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立については、総合的に栄養を取ることが出来るよう常に留意して作成している。また、水分についても頻繁にティータイムを設けることで、より多くの水分摂取の機会を得られるよう図っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防や対応指針については、行政からの資料を流用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の衛生管理については、アルコールと次亜塩素酸による消毒を併用している。また、食事関係の業務にあたる際の手指消毒を徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	大きな看板や、マンション住人も使用しているエレベータなど、建物周囲に開放された雰囲気を出すように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファを設置したり、入居者が作成した季節に応じた作品を展示するなどして、生活感や季節感を出すような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では、多人数で過ごせるような空間作りに重点が置かれており、独りになれるスペースは居室が中心である。	○	共有空間が狭く、新たに独りで過ごせるような空間を設置することは困難だが、居室で過ごす時間を尊重し、共有空間でなくても自由に独りで過ごすことが出来るよう、配慮を続けていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に本人所有であったものは利用していきたいと考えており、特に仏壇などの宗教的なものを中心に実際に持ち込まれているが、大きな家具類は既に施設側で用意されており、持ち込み物品は小さなものが多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有スペースには換気扇が設置されている。また、室温計の数値を参考に、居室と共有部分に大きな気温差が無いよう、こまめな温度調節が行われている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりや、個別に用意された福祉用具を活かして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	声かけなどを中心に、個々のわかる力に応じた対応に努めており、混乱や失敗が最小限に留まるよう配慮している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている。	中庭に畑を作った。数種類の野菜を植えており、収穫を ともに楽しむことを目指している。ベランダは景色を眺 める程度にしか使われていない。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input checked="" type="radio"/> ④	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input checked="" type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいの 家族等の1/3くらいの ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目